

をなして居るのである。酒が無かつたならば、あの恐ろしい様子は無かつたらうに
 同例は澤山あるけれども、時間がなから省きます。
 一千九百十七年、あの露西亞の革命に於て、たつた二十人しか殺されなかつた。
 有名な酒會者である所の、ウイニコンシン大學の教授、ロックス氏が目撃した。露
 西亞革命が恐ろしいからべき筈であるのに、たつた二十人しか殺されなかつたのは、露
 西亞に酒が無かつた爲めである。酒があつたらば、たつた二十人では濟まなかつた
 らうに、斯う申して居ります。之を見ましても、いかに酒が怖いものかといふこと
 を考へ得るのであります。
 宗教の破壊者
 酒は宗教の破壊者である。マホメット教は酒を飲む者を殺し殺人罪の
 咎に見て居る。佛敎に於ても酒承知の通り酒は恐ろしいものだから、
 居る。凡そ宗教者は絶対に禁酒しなければならぬといふ流がある。基督教に於て
 は、必ずしも之を禁じて居らぬけれども、やはり一の運動になつて居る。自分の
 精神を確かりして、苾のたる眼を以て、真理の奥底に入つて行かうとするならば、

吾々が酒に酔つては、宗教的生活の源に轉ずるは出来ないのでありますから、
 つらんだ眼を以て、華酒門に入るべからず、自分の御殿、神の御殿、佛の御殿に
 向つて、酔の一部分でも之に加へてはいけない、苾のたる、確かりした精神を以て
 常に至上の真理を見ることの覺悟がなければならぬ。

新文明

精神文明ニアルコリスムは、全然相反した道である。此意味に於て
 新しき時代が既に自まつ、ある。即ち吾々は思ふ、舊き文明は、外形か
 ら来るものの劇樂的刺戟を要求した、或は阿片、或はコカイン、或はモルヒネ、
 或はハルコト、作しなから二十世紀の新文明は、決して此種積の刺戟、或は劇樂
 によつて、己の精神を街に浮かすことがあつてはならない、新しき文明は、此種積
 の刺戟を外形に求めるまでもなく、内部から湧いて来る本然の生命、新しき文明は
 心の文明であると共に、毒藥、劇樂の文明でないところのものであつて欲しい。
 (拍手)十九世紀の世紀末文明として、彼のデカタン文明があつた、其デカタンの腹
 類藝術は、酔へ、酔へ、酔へ、酔へ、酔へ、酔へ、酒であらうが、詩であらうが、